

1975

広報まき 11/25

発行 / 新潟県巻町役場

編集 / 企画課

毎月10日・25日発行

第232号



「カゼとんでゆけー」

いま、保育園や学校でインフルエンザの
予防接種が行われています。

ここめぐみ保育園（3区、泉 照空園長）
でも11月13日、全園児がカゼひきさんにな
らないようにと予防注射。

みんな元気でウデまくりして注射をして
もらいました。

衛生センター増設工事が完工 一日処理能力 七二キロリットル 五万四千人のし尿を完全処理

＜イメージ＞新の衛生センター。巻、西川、岩室、濁東四カ町村の人口五万四千人分の、し尿の完全処理ができます。



巻町外三ヶ町村衛生組合（管理者・巻町長村松次一）が進めていた、し尿処理場増設工事が終わりました。十一月六日、岩室村老人いこいの家静閑荘で完工式が行われました。当日は保健所、四カ町村議長、組合議会議員をはじめ、地元

区長、工事関係者など七十人が参加増設工事の完工を祝いました。

この増設工事は今までの消化槽一基（一日三十六キロリットルの処理能力）では完全処理しきれなくなってきたため、四十九年八月に開かれた組合議会で消化槽一基（一日三十六キロリットル処理能力）と付帯工事を含めた増設工事を決定、十月に着工し二カ年継続で工事を進めてきたものです。総工費は二億九千五百十五万円、年金積み立て金（厚生年金

町政発展の 誓い新たに 合併20周年記念式典

町では十一月十六日、巻小学校で合併二十周年記念式典を行いました。

当日は町議会議員、区長をはじめ、町政発展にご協力をいただいている関係者二百二十人が出席。町長が「これを契機にして一層の住民サービス、福祉向上に努め明日の豊かな明るい町づくりのためにがんばります」とあいさつ、県知事、国会議員など来賓からお祝いのことが贈られ、式典を終わりました。また、役場では二十周年の記念



町政発展の願いを託して、町の木「榎」の記念植樹を行いました。出席、二十周年を祝いました。

暖房器具の正しい取扱いを 今年は火災の多い年です

「幸せを明日につなぐ火の始末」を合言葉に、十二月二日まで全国いっせいに秋の火災予防運動が行われています。今年火災発生は例年になく多く、一月から十月までの消防車の出動は二十三回に達しています。内訳は建て物八件、林野十一件その他四件で、損害額は千六百六十四万円にもなっています。

火災原因の大半は「不注意」によるもので、山火事ではたき火の不始末が八件を占め、建て物では石油ストーブの取扱い不良が目立ちます。家庭でも、これから暖房器具を使う機会が多くなります。正しい取扱いをして、町ぐるみの火災予防にご協力ください。

中学生が野球 と排球に熱戦 峰岡地区で球技大会

峰岡地区公民館連絡協議会（杉山泰三会長）では、十一月二日峰岡中学校で中学生の球技大会を開きました。当日は七分館から百三十人が参加、男子は野球、女子はバレーボールに熱戦を展開しました。成績は次のとおりでした。◇野球 一位稲島分館、二位竹野町分館、三位仁箇分館、福井分館 ◇バレーボール 一位稲島分館、竹野町分館、二位福井分館、三位鷺ノ木分館

下水、消防設備に不安 四ツ郷 屋会場 移動役場で活発な意見交換

△三十人が参加、活発な意見交換が行われました（四ツ郷屋分館で写す）



十八日の四ツ郷屋を最初に、移動役場がスタートしました。当日は会場の四ツ郷屋分館に主婦七人を含め三十人が参加。町からは町長をはじめ全課長が出席、町長が「みなさんのご意見をできるだけ行政に反映させたい、そのために活発なご意見を」とあいさつ。話し合いは懇談会形式で進められました。

部落の要望として大きく取り上げられたのは下水の排水と消防設備の問題でした。下水問題では台所下水などが全戸家数内にたれ流

しであり、その地下水を井戸から飲用している現状と、衛生面でも問題があるので何とか改善できないかという要望が出されました。町としては「四ツ郷屋は盆地で各戸大きな高低差があり技術的にむずかしく、多額の工費を必要とする。今後の課題として考えさせていただきます」ということでの了解を得、消防問題では「川」のない部落の現状から、水槽二基をどうしても新設してほしいという要望が出され、町としては「水槽設置については要望に添うよう最善の努

新成人のつどい のお誘い 30日まで申込みを

巻町・濁東村教育委員会では十二月十三日、十四日の二日間、県立青少年研修センターで「新成人のつどい」を開きます。

当日は、「一票の価値」「青年の生き方をめぐって」などの講話やフォークソングやダンスなどの楽しい内容が予定されています。参加希望者は十一月三十日まで公民館へ申込んでください。大勢のみなさんの参加をお待ちしています。参加費一人千円。定員は申し込み順で百人。

善意

老人いこいの家 得雲荘に、横山清作さん（七区）からカラーテレビ一台（十万五千円相当）の寄贈がありました。巻郵便局から、巻北小学校にこのような苗木の寄贈がありました。

人口、世帯数ともに 増えました 町の国勢調査概数

区分	50年	45年	増加数
世帯数	6,470	6,091	379
人口	27,684	27,139	545
男	13,509	13,106	403
女	14,175	14,033	142

町では、10月1日現在で行われた国勢調査の概数をまとめましたのでご紹介します。今回の調査では、前回45年と比べて人口で545人、世帯数で379増えました。これは他市町村からの転入と、出生などの自然増加によるものです。

地区別では巻地区が人口792人、305世帯と増えていますが、その他の地区では79世帯増えている反面、人口では247人減っています。これは巻地区への人口集中化がまだ続いていることを示しています。

しかし、町全体としては30年国勢調査の28、507人に向けて人口が回復しつつあることは喜ばしいことです。これは海・山・川などの自然に恵まれた住みよい巻町が見直されてきたためと思っています。

今回の調査にあたり、みなさんからご協力いただきありがとうございました。

賢い消費者め ざして研修会

消費者協会巻支部が新潟市の工場を見学などを視察しました（写真左）

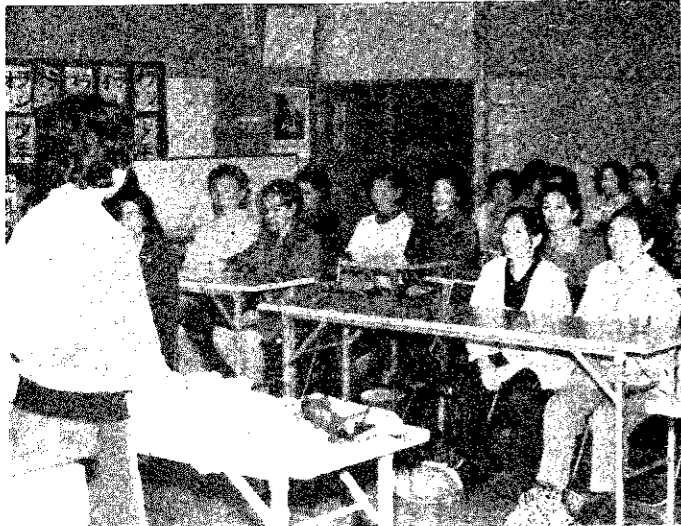
これは消費者の知識の向上を図るために毎年行っているもので、当日はあいにくの雨の中を熱心な会員四十五人が参加。大型バスで赤塚の中伸食品漬け物工場、鳥山種苗園東北電力グリーンプラザを見学しました。グリーンプラザでは電気製品の取扱い方について懇談会を開き、真剣な意見交換を行いました。

そして最後に、不良商品の苦情相談を処理する消費生活センターを見学し、有意義な一日を終わりました。



▽移動消費生活センターで勉強

さきほど県の移動消費生活センター車「ゆきつばき号」が来町。会場の公民館には100人の主婦が出席して、食品テストなどで1日研修しました。



△食生活改善推進委員が研修 11月10日、栄養指導センターで食生活改善推進委員の研修会が開催。当日は50人の委員が参加して、地域活動のあり方や調理実習を熱心に研修していました。



▷松野尾青年団が「夕鶴」を公演 さきほど、松野尾青年団(大越茂団長、団員六十人)が演劇「夕鶴」を公演。会場の松野尾小学校は、三百人の参観者で埋まり、毎日夜おそくまで練習を重ねてきた団員の演技に見入っていました。



汗の価値

西村欣策

「せめて子どもたちが安心して暮らせるようにしたい、という目標を立てた田圃は、いまだに一切犠牲にひたすら働いてきた。そして部落でも上位の規模の農家になった。しかしいま、命終わろうとして顧みると、うちの親父たちは一体何をしてくれたのか」と、子どもたちは私の生涯かけた努力のあとを一笑に付してしまふ。と、語っている老人に会った。それで、「おれの人生とは何だったのか、と思うと淋しくたまらない」と、その人は目をうるませて語っていた。わかし、開拓に打ちこんだ人たちが、汗と涙を大地にしみ込ませて生涯の大事業をなし遂げた時、「おれの骨は、あの畦(あぜ)の四方に埋めてくれ」と頼んだという。ところによつては田圃の真ん中に墓地があつて、その遺志を表現しているところを見かけたものである。なぐさめるものもない、ほめるものもない、人間生活の最後を自分の汗と涙のあとに埋めてもらいたい、と願う心は最大の自己慰勞であつたのである。



ところが、そんな人たちが累々とやり場のない気持ちでいることを思うと、ほんとうにたまらないのである。それでも、わかしの開拓者が残してくれた田圃は、いまだに残っている。そして、社会は大きな恩恵を与えてくれたと見る人も多い。ところが、現在はその上に新しい技術を学び、新しい耕法を打ち立て、素晴らしい生産を確保するようにになった。しかしその農業者は「不用もの扱いされる世相になった。そこで、努力の権化も泡のようにしか世間は見えないのである。最も信頼する家族のものも慰勞も得られない。時たまたま菊薫るころ社会の発展に尽したという人たちが表彰され、讃えられている。その中で、一生を燃やし尽して一顧の値もないと見られる場があつてはたまらないのである。

日本の職業紹介事業の父

「豊原又男翁」を刊行 双書23集

町では、双書第二十三集「豊原又男翁」を発行しました。豊原翁は峰岡出身。明治五年六月三根山藩の士族の家に生まれ、単身上京し苦学苦業を重ねながら日本の労使関係、雇用・労働問題の調査研究と工場労務管理について勉強、明治年代の「工場法」制定運動に半生をかたむけました。大正五年、工場法制定後は公益

◇その他 所得制限がありますので、くわしいことは社会課へおたずねください

大倉アナをむかえて 明るい仲間づくりの研究協議会

西蒲原社会福祉事務所と巻町・渦東村教育委員会では11月30日、県庁総合庁舎で「明るい仲間づくり研究協議会」を開きます。当日はBSNミュージックポストでおなじみの大倉アナウンサーをむかえて、小出一二三さん(松野尾)の「農民の船」レポートや楽しいレクリエーションを予定しています。巻・渦東両町村に住む勤労青年のみなさんのおいでをお待ちしています。

福祉手当の受給者は忘れずに申請を

9月25日号(第228号)でお知らせしましたが、10月から、在宅の重度障害者に月額4千円の福祉手当が支給されています。該当すると思われる人は社会課で手続きをしてください。

◇支給要件 ①精神、身体に重度の障害があり、日常生活に介護(身の回りの世話)を要すること②直らない不具の病気で、他の制度による給付を受けていない人(障害福祉年金、特別児童扶養手当は併給できる)

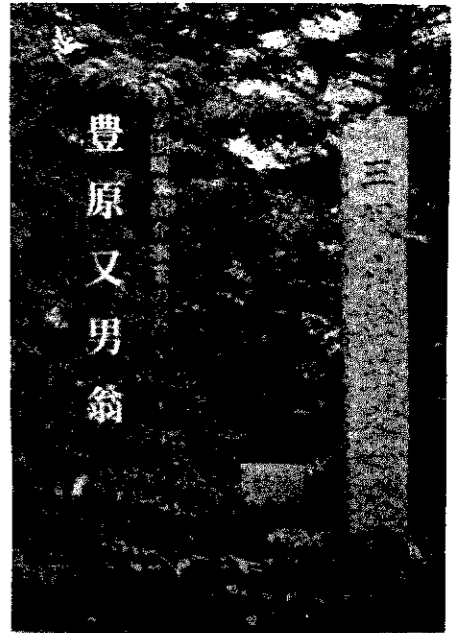
◇支給対象となる障害者 ①日常生活で常に介護を要する程度の身体障害者(身体障害者手帳1級及び2級の一部を含む)②長期にわたって安静を必要とする症状の療養者③日常生活で常に監・介護(監督しながらの世話)を要する精神障害者④日常生活で常に介護を要する精神及び身体の障害を合わせもつ人。

◇支給する月 1月、5月9月

◇手続き 戸籍抄本1通と印鑑

資料館で風景画展と刀剣展

郷土資料館では、文化祭行事の一環として次により特別展を開いています。入館は無料です。◇風景画展「描かれた巻町」 11月16日から12月14日まで開催、町の風景画43点を展示しています。◇刀剣展示会 11月30日と12月1日の2日間、町の愛刀家の所蔵品20点を展示します。なお、風景画展の期間中は日曜日にも開館し、月曜日を休館といたします。



写真上は双書23集「豊原又男翁」

んです。A5版百二十七ページ。希望者は郷土資料館へ申込んでください。

小川喜生



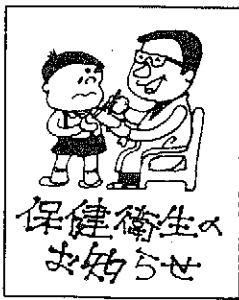
☆生年月日 四十九年五月十一日 ☆住所 越前浜 ☆両親の名前 吉幸(父) 栄子(母) ☆続柄 長男 ☆名づけ親 祖父 ☆名前の由来 しあわせで暮せるように ☆愛称 ヨシくん ☆好物 ようかん、リンゴ、甘い菓子、みそ汁

赤ちゃん

山賀敬子



☆生年月日 四十九年二月十七日 ☆住所 竹野町 ☆両親の名前 小一郎(父) 良子(母) ☆続柄 長女 ☆名づけ親 祖母 ☆名前の由来 長谷川敬三産婦人科医から一字もらった ☆愛称 ケイチちゃん ☆好物 ミカン、バナナ、チョコレート



私たち県外研修生二十九人は、十月二十五日から二十八日まで青森県岩木町で、同町連合青年団と交歓研修会を行いました。

十二時間半あまりバスにゆられて岩木町に到着、教育委員会や公民館はじめ大勢の青年たちの歓迎を受けました。



仁箇青年団
土屋江美子 (2)

県外に友を求めて
青森県岩木町研修レポート

私は五代青年団の鳴海さん宅に民泊することになりました。家族は両親と兄さん夫婦の五人で、みんないい人ばかりで、あたたかい人情味のある家庭で感激しました。今はリング栽培に専念しているそうです。

当日の夜は各单位団ごとに別れおそくまで話し合いを持ちました。翌日はリングの選果場、弘前公園、弘前城などを見学。夜は公民館で話し合いと夕食会が開かれました。夕食会では歌や踊りなども披露うされ、時間のすぎるのも忘れて楽しみました。

岩木町青年団は、単位団では割りと活発な感じでしたが、連合体となるともう一歩という感じがしました。これも連合青年団が

◆乳児検診 ▷とき 12月3日と18日いずれも13:30~14:30▷ところ 分室▷対象児 3日は49年12月生まれ、18日は50年5月生まれの乳児

◆2歳児検診 ▷とき 12月15日13:30まで集合▷ところ 分室▷対象児 48年12月生まれの幼児

◆先股脱検診 ▷とき 12月17日13:30~14:30▷ところ 分室▷対象児 50年8月・9月生まれ

◆インフルエンザ予防接種▷とき 1回目12月4日2回目12月12日いずれも13:30~14:30▷ところ 分室▷対象児 3歳以上で小学校へ行っていない幼児で希望者▷料金 1回110円▷持参品 問診票と母子手帳

◆小児まひワクチン ▷とき 12月9日13:30~14:30▷ところ 分室▷対象児 生後3カ月以上の子どもで①初めて生ワクチンを飲む幼児②1度しか飲んでいない幼児▷持参品 問診票と母子手帳

◆献血 12月4日9:30~12まで分室 13:00~15:00 総合庁舎



岩木町青年と寝食をともにして研修、親交を深めました。

できてから日が浅いためだと思いましたが、これからの青年団の成長を心からお祈りします。

二十七日朝、サヨナラパーティーが行われ、これで岩木町青年とお別れしなければならぬと思うと急に涙が出ました。

今回の研修で岩木町の人達のやさしい気持ちにふれ、うれしく思いました。

また。これからの青年団の成長を心からお祈りします。

▽十月二十五日から二十七日まで町の青年が青森県岩木町を訪問、研修会を行いました。参加者の中から土屋さんのレポートを紹介させていただきました。

発行部数七、〇〇〇部

印刷 新潟県巻町 北洋印刷株式会社 電話 23345

外 科	
7日	県立吉田病院 ☎(吉田)2-5111
14日	竹前医院 ☎(巻)3-2809
21日	県立吉田病院 ☎(吉田)2-5111
28日	町立巻病院 ☎(巻)2-3111
29日~31日	新潟市中央病院 ☎(新潟)49-4101

12月休日救急病院

内 科	
7日	長沼医院 ☎(2)2208
14日	古寺医院 ☎(2)2016
21日	町立巻病院 ☎(2)3111
28日	齊藤医院 ☎(2)2056

役 場	
分室	(代)213131
町立巻病院	(代)213111
消防署	213309
水道課	212164
公民館	213329
教育委員会	(代)312000



電話メモ